



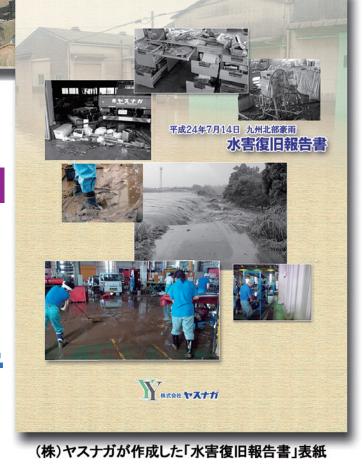
(西日本新聞 7/16)

特集

株 水害復旧報告書に寄せて

未曽有の被災体験

・半年後の報告



1 突然、襲ってきた泥流

「10月に会社の旅行で湯布院に行ったんですが、今年の旅行は例年になく、参加者も多く、なにしろ皆がよく飲んだ。勿論、水害の話ばかりをしていた訳ではないんですが、皆がお互いに苦労を労い、よく語り合った証ではないかと思います。その酒量たるや、会社始まって以来の量。旅館の人も驚いていました。」安永社長自身もかなり驚いた様子だった。

ヤスナガが九州北部豪雨によって未曽有の被害を受けたのは、去年7月14日。それから半年。ヤスナガでは、被害総額2億1700万円にものぼる被災記憶を振り返り、これを記録にとどめようと「水害復旧報告書」をこの度、編纂した。この報告書は全45ページ、被災当日の様子や被害状況、復旧作業の詳細、社員全員を対象に実施されたアンケートに基づく証言等が細かく紹介され、彼等が被災時の経験を通して得た貴重な教訓が克明に語られている。

ヤスナガは、この報告書を自社のBCP(事前対策書)にするだけではない。今回の被災にあたり、多大な協力をしてくれた人々や、関係先企業に配布して、少しでも自分達の経験を今後に役立ててもらおうという感謝の意が込められている。

東日本震災で私達は、突然襲ってくる災害の恐怖を目の当たりにした。創業以来の危機に見舞われたヤスナガが、如何にして困難を克服してきたのか。半年後の〈ヤスナガ〉を訪ねてみることにした。

右の写真は、今回の被害の元となった沖端川の決壊現場である。ヤスナガから北に250M。矢部川の支流になる小さな川である。橋の上から見ると決壊箇所に青シートが被せられていた。御覧の通り、川の水量は少なく、とてもこの川が決壊したとは思えない。周囲を見渡していると犬の散歩をしている初老の御婦人が通りかかった。

「あそこが決壊したんですね。」と話しかけると、彼女は自らの被災体験を生々しく語り始めた。彼女はヤスナガの工場のすぐ裏に住む古くからの住民で、被災当日の朝は、たまたま息子から預かった4歳になる孫と愛犬と一緒に激しい雨が降りつける自宅にいた。「サイレンが鳴って水が家に入ってきたから小学校に逃げようと思ってね、孫を抱いて犬

をバックに入れて、勝手口を開けた途端、泥 水がドバアと腰まで一気に入った。私は佐生の大いで一気に入った。私は佐生のた。私は佐生のた。私は佐生のためなど一瞬、お母さんが、お母さんでである。」彼女は、泥だらけに変られてもんね。あんな経験って、私だけで充分。」彼女は、泥だらけに婆ちゃん、なけで充分。」と聞いてきたこと。別が、警察の制止を振り切って、全身泥水に、は、整察の制止を振り切って、全身泥水、凡には、警察がら、助けに来てくれたこと等、人に、かりながら、助けにある、とでも見が、見ず知らにある、とに、とても見えなかった。

安永社長も被災当日の朝、会社を臨時休業にした後、一時帰宅。その直後、沖端川が決壊して自宅が孤立した。会社に再び戻れたのは、水が深いところで腿位まで引いた被災当日の夕方になってからのことだった。

「初めて会社の被害を目にした時は笑うしかなかったけど、会社がどうかなるのではないか等という悲観的なことは一切考えなかった。自宅が孤立して否応なく待機せざる負えなかった半日間で、腹が決まっていたんですかね。とにかく一日も早く復旧するぞ!という気持ちだけで後向きなことを考える暇もなかった。」

2 酷暑の復旧作業 13 日間

社長は復旧作業の13日間でズボンのベルトが、すかすかになってねえと笑いながら、 更にこう続けた。

「カミサンが言うんですよ。被災の翌日から、私が朝起きる時にいつも『今日は復旧 O日目!』と、大声で言いながら起きていたと。



現在の沖端川決壊現場



溶接担当の原田さん

私は覚えていない んですが、一日も 早い復旧のことし か、あの時の私は 考えてなかったん です。」

しかし、復旧作 業は酷暑の中、困 難を極めた。デップ・長靴・高圧洗 浄機等、清掃道具 の調達。どれもが 不足していた。社

員の分担指示や清掃に使用する水の確保。支援や御見舞に駆けつけてくれたボランティアや関係各社の方々への対応。どれもが初体験のことだった。無論、仕事は停止せざるをえなかったので、取引先に対する現状報告や修理を依頼する機械メーカーへの連絡。又、保険処理の準備や、保全保管しなくてはならない金品の整理等。清掃作業の一方で、しなくてはならないことが山積していた。

復旧作業が開始したのは翌7月15日朝。 照りつける太陽と工場内の異常な湿気が作業 者の体力を極端に消耗させたが、泥のかき出 しと洗浄作業は連日、急ピッチで行われた。 入社7年・溶接担当の原田さん(52才)は、 被災状況を見た直後を次の様に語る。

「正直、復旧迄には最低でも1~2ヶ月はかかるだろうと思った。工場内は10~20CMの泥が入っていて長靴を履いて歩くとズボっとはまる状態。動くのも大変でしたからね。仕事を前の様に出来る様になるんだろうか?本当に、不安な気持ちで一杯でした。」

しかし、復旧作業は社員の他、ボランティアや全社的に支援した機械メーカーの協力もあり、予想を遥かに凌ぐスピードで進んだ。報告書によると被災後2週間の7月28日・土曜日には、殆どの清掃作業を終え、翌週から「通常業務に入る」と社長は、終礼で社員に告げたという。安永社長が掲げていた復旧迄1週間には、及ばなかったものの、周囲の予想を覆す早さで清掃作業は完了した。1~2ヶ月はかかると予想していた原田さんは、

「以前には殆ど話さなかった他の部署の人や若い人、皆が声を掛け合って作業が出来た。 今から思えば段取りが悪い面もあったけど、 予想外に早く清掃が終わったのは、やはり皆 の力が結集したからだと思う…」と語る。

3 水害を経験して得た教訓

水害復旧報告書には、実体験した者でしか 分からない貴重な教訓が幾つも語られている。清掃で役立った道具や効率が良かった作業方法。見逃されがちなボランティア対応の難しさ。酷暑の中で連日作業にあたった社員の熱中症対策。被災を想定した事前準備の甘さ。そこには、経験のない私達には、決のてわからない数々の教訓がある。全社員とというと、と、公改善されるべきこと〉の記述は実体験がある。ヤスナガでは今回編纂した「水害復旧報告書」を支援してもらった関係各社に配布する他、自社のHPでも、自由に閲覧できる様にしたいとしている。

どの会社であっても、いつ襲ってくるかわからない災害。経営者のみならず、社員の一人一人が決して他人事ではなく、自分の問題として熟読しておきたい貴重な資料である。

冒頭に被災後のヤスナガの旅行が例年になく盛況だったという話を紹介した。私はその話を聞いて安心した。同業者として、ヤスナガの復活は私も嬉しいし、今回、ヤスナガにきった記憶を後世にも必ず残しておきたいと考える。ヤスナガにとって今回の水害は、創業以来の危機だった。しかし、皆の力で乗り越えたからこそ、会社としてのチーム力は今、被災以前よりもずっと強靭化したのではないか。入社2年目で複合機を担当する中国人の劉さん(27歳)は、今回の被災を振返って、次の様に語る。

「私は中国の山東省出身。中国では災害が 起きると、周辺地区の水代が跳ね上がりま



複合機担当の劉さん

す。誰も他人のことのなんか考えてない。でも、今回の復旧作業にあたった社員は勿論、ボランティアや機械メーカーの方々等、皆が励まし合って作業する日本人の姿は驚きでした。私にとっても、本当にかけがいのない経験になりました。入社した時、技術も資格もない私がヤスナガで仕事を続けられるのだろうか?と不安でした・しかし、今回の経験を通して改めて私は思います。この会社でこれから先も頑張ろうと。」

4 1枚の写真が語る復活・ヤスナガ

最後に1枚の写真を紹介したい。この写真は、清掃作業をほぼ終えた7月27日に写された。中央部で社長の隣に写る若い男性は、前述した劉さんの親友でもある中国人の王さん(27歳)である。彼は今、ヤスナガの中国工場で働いているが、今年7月、1カ月間の研修を受ける為、初めて日本に来ていた。その2週間後に、ヤスナガが被災したのである。彼の研修の半分は、酷暑の中の清掃作業にずの関係で中国に帰国する王さんを社員皆で送別する日だったという。そのお別れの日

が、清掃を終えた日と重なったのである。王 さんの送別記念となった一枚の写真。皆さん はどう思うだろうか?私は、この写真を見た 時、とても壮絶な2週間を過ごした直後の写 真には見えなかった。極度の疲労感はあった 筈なのに皆の表情には、ある一定の安堵感と 大仕事をやり遂げた充実感が共有されている かの様に私には見える。

この翌日、王さんの送別会は本人の希望で 「呼子のイカ」を肴に、課長と二人でささや かに行われた。それは、彼の研修初日の歓迎 会と同じ場所だった。王さんは「イカ」を食 べながら一体、何を考え、何を感じ、1カ月 間の研修を振り返ったのだろうか。そして今、 彼がもし半年を経たヤスナガの姿を見たとす れば、一体どう思うだろうか。安永社長は、 写真を見ながら「改めて、王さんを日本に呼 んであげないとねえ」と言った。彼に会う機 会があれば是非、話してみたい。彼はきっと 今回の被災体験を通して、決して通常の研修 では得られない企業経営や危機管理の難しさ を学びとったのだろう。そして今頃、ヤスナ ガ・中国工場の仲間達に、それを語っている に違いない。

〈大和 啓介 三和金属(株)〉



7月27日撮影の王さんの送別記念写真



九州シートメタル工業会の会員各社を順番に訪問し紹介させていただくシリーズ第35回目は株式会社太郎兼光工業所です。三代目社長、井上正通氏にお話を伺いました。

Q:ご創業のきっかけをお聞かせ下さい。

A:昭和6年に創業者である祖父(井上太郎氏)が、刀工(兼光)の流れをもつ方から鍛冶の教えを受け、久留米で事業を始めたのがきっかけです。当社の名前はそこからきています。当初、鋤の刃物や簡単な風呂釜などを製作しておりましたが、電力計のケースをきっかけにして、重電向けの配電盤や制御盤の仕事をいただいたことが契機となり板金を本格的にやり始めました。その後は、弱電向けの配電盤や制御盤、低圧小型ボイラー、オイルタンクや半導体部品などへと業務の範囲を拡大して参りました。



オイルタンク

Q: 御社の業務内容と特色や特徴をお聞かせ 下さい。

A:業務内容は精密板金、非鉄や鋳物の溶接、ポリカーボネイト加工品の3つです。特徴は何と言っても"社員"です。少数精鋭、一人で何役もこなせるよう、製造はもちろんのこと営業から納入まで何でもやる、元気な社員が揃っております。なかでも事務担当の渡邉係長はいろんなアイデアを積極的に提案してくれる前向きな社員です。お客様からの電話はワンコールで対応するなど、お取引様からほめていただくことがとても多い当社自慢の社員でもあります。



渡邉係長「事務員として会社に何ができるかを一生懸命に考えております」



23 回出品作品



また、ここ3年は板金 フェアに連続して参加し ています。お蔭さまで 今年、龍の置物3部作

(写真参照) が完成しました。板金フェアに3

年間参加してみて、製

作に関わった社員自身

いろいろな気づきや学

びがあったようで大変

に良かったと感じてい

ます。

24 回技能賞受賞作品



25 回銅賞受賞作品

Q:今後の展望や夢についてお聞かせ下さい。A:自社の技能をさらに高め、ボールのような球面体を自由に製作できるようになりたいですね。ゆくゆくは自社製品の開発など夢のある仕事を今以上にどんどんやってみよ

うと考えています。



会社概要

所在地 〒 830-0048 福岡県久留米市梅満町 265-1

TEL 0942-38-6262 FAX 0942-38-0471

E-mail: taro1@mx71.tiki.ne.jp

商 号 株式会社 太郎兼光工業所

工場の片隅に天田製作所の古い 鋸盤(CRA300)を見つけました。 大事に使っておられますね!

〈田名部 淳 (株)田名部製作所〉





24年11月20日にJR内野カントリークラブにて10社12名の参加を頂き親睦ゴルフコンペが開催されました。当日は最高の秋晴れのコンディションでした。

JR内野ゴルフコースのグリーンは、普通のゴルフ場の3倍位の広さがあり更に勾配の難しい位置にピンがあった為、グリーンに乗せても4パット以上される参加者が続出し、スコアーは思う様に伸びませんでした。

それでも参加者の皆様のプレーの内容は、 珍プレー・好プレー有りで楽しく最後まで楽 しくする事が出来、会員同士の親睦が図れま した。

優勝は昨年に続き野村圭昭氏(博多シヤリング工業㈱)・準優勝は原田龍太郎氏(八祥

産業㈱)でした。



今回のゴルフコンペは参加者が 少なかったのですが、来年も開催し ますので是非たくさんの方のご参 加をお願いします。

〈佐伯 雅晴 事務局〉



第15回『賀詞交歓会』 開催される



さる平成 25 年 1 月 25 日 に 30 社 50 名の 会員の出席により、今年度は博多駅東の八仙 閣において賀詞交歓会が盛大に開催されまし た。

田名部会長の挨拶に続いて、株式会社アマダ西日本営業部門関西テクニカルセンターの中原部長にご祝辞をいただき、原田総務部会長に代わって急遽梅崎幹事のご発声により乾杯となりました。政権交代後のこのところの円安・株高を追い風に巳年の今年一年は一皮むけることに期待しつつ、この時期にシート



メタル工業会の研修に積極的に参加して足腰を鍛えようといった話がありました。紹興酒を片手にあっという間に時間は過ぎて、宴もたけなわ、株式会社ヤスナガの安永社長より



去年7月の九州北部豪雨の 御支援に対する御礼の後、 安岡副会長の一本締によ り中締めとなりました。

多数のご参加、誠にあり がとうございました。

〈白水 靖久 (株)新栄製作所〉



平成 24 年度 工場視察研修会

12月7日~8日に、工場視察研修会が開催されました。(参加数:15社 23名)

新幹線で九州各地より集合し一路京都へ。 最初に訪問したのは、西垣金属工業株式会社 様。大正13年にヘラ絞り加工の工場として 京都市で創業され、ヘラ絞りの技術を武器, 強みとされている会社です。板金加工につい ても毎年設備投資をされているとのことで最 新の設備がたくさん並んでいて驚きました。 工場内見学の際、ヘラ絞りの加工を実際に見 せていただきましたが、正に職人技。作業者 が独自にカスタマイズした工具であったり、 加工時の微妙な力加減の調節そして腰使いな ど、他社では真似できない、創業時より継承 ・成長されてきた技術を目の当たりにしまし た。また、スキルマップを活用してヘラ絞り だけでなく、会社全体で人「財」育成に注力 されていて、西垣会長が「財産といわれる社 員を育てる」とおっしゃっていたのが印象的 でした。



西垣金属様にて質疑応答

次に訪れたのは、同じく京都市の伊東板金工業株式会社様。大手メーカーの自動券売機の製作(板金~配線組立)を主とされる会社です。約95%がリピート品の為、生産の平準化を行い計画生産しているとのこと。「図面を見ないでモノをつくる」独自のシステムを構築されており、工場内では品物に伝票が一枚だけ貼付され製作が進められていました。また、工場内各所に使用材料や溶接,スポットそして仕上げ程度のサンプルが掲示してあり、品質のバラつきを抑える工夫をされ



伊東板金工業様

ていてとても参考になりました。

夜は京都市内で懇親会が行われ、和やかな 雰囲気の中楽しい時間を過ごしました。

二日目はまず高台寺へ。豊臣秀吉の正室北 政所(ねね)が秀吉の菩提を弔う為に創建された高台寺は、紅葉の名所としても知られていますが、残念ながら一週間ほど遅かったようでした。

次にバスでアマダ関西テクニカルセンターへ。最新機械を見学したり、丁度開催されていた「3方向R曲げ加工」のセミナーを受講したりと有益な時間を過ごし、その後新幹線で九州へと帰りました。

今回の工場視察研修会を通して、『他社にない技術を持つことの強さ』そして『人を育てることの大切さ』と、当たり前のことなのですがこの二つのことを改めて痛感しました。来年度も参加してたくさんのことを学べればと思っています。また、今回以上にたくさんの方に参加いただければと思います。

〈長澤敏光 ナサ工業(株)〉



西垣金属様本社前にて



高台寺庭園にて

《板金いろは研修》に参加して



工業会では今回初めて、24年5月に板金業界向けの新人研修を実施し、さらに7月にフォローアップ研修を実施しました。研修のしめくくりとして11月末に会員企業4社へ2日間の工場見学を行いました。実際に研修に参加した3名に御意見を伺いました。

株式会社 三松 永野 美香

第1日目

(株)ナダヨシ様 ナサ工業(株)様を訪問

工場見学では、サンクスカードや YAG 溶接、シートメタルクラフトなどさまざまな他社さんの特徴や製品の流れ、管理方法を見ることができました。

また、追従装置やアイアンワーカーなど三松 にない設備を見ることができ勉強になりました。

第2日目

(株)三松 (株)ヤスナガ様を訪問

自分たちで、自社の工場案内をしてみて、 自部署のことしかわかっていなかったのだな と改めて思いました。

普段、目にしている受注票や識別シートなど説明するのが難しく、三松での製品の管理 方法などもあまり理解できていなかったのだなと感じました。また、他部署のことを知る、 いい機会になりました。

自部署だけではなく他部署にも目を向けて 三松のことをもっと知っていきたいです。

案内する予定時間より早く工場見学を終了させてしまったのが残念です。もっとゆっくりしゃべり、時間配分を考えるべきでした。しかし、緊張せずに笑顔で案内できたのでよかったと思います。この研修を通して三松のいいところ、変えなくてはいけないところなど少し分かったような気がします。



株式会社 三松 豊田 祥子

普段の作業では自分の部署のことしかわかりませんが、今回自分達で工場案内をするということで、たくさんの方に協力して頂いて他部署のことも勉強し、他部署で行っている取り組みやどういった作業をしているかなどを改めて知ることが出来たので良かったです。

また、他社の工場を見学し、製品の管理の 仕方、どういった加工を得意とするのかなど さまざまな点が違っていたので、とても勉強 になりました。他社の工場のいいところを取 り入れていきたいと思いました。他社と比べ て整理整頓がまだまだできていないと思った ので、まずは、身の回りの整理整頓から改善 していこうと思います。



有限会社ユー・アイ技研 宮本 峻介

"いろは"で学んだ板金業として目指す姿

板金業界に就き1年半、右も左も分からない為、まずは"いろは"からということで参加させていただきました。

2日間で九州の板金業をリードする4社の 見学という濃密な内容でした。

最初のナダヨシ様は、板金技能フェアで金賞を受賞、マスコミから多くの取材を受けられていました。その結果として、創造的なモノづくりと超多能工化を実現されています。 "灘吉丸"という船にちなんだ社名で、少数精鋭のクルーを、板金加工のプロ集団に変えていました。

次にエスカレーターのナサ工業様は、製品

の発想から製品化までのプロセスを一貫して 請け負う"コンサルティング"企業というイメージでした。板金工場とは思えないおしゃ れな外観、事務所、設計室を訪れると、『何 かここに発注したい』と思ってしまうような 会社でした。

二日目は三松様から始まりました。月9000点が小ロットという驚異的な生産をされています。計算されつくした製造工程に併せ、企業ブランディングへの着手や、三松マイスター制度というスタッフさんのモチベーションを充実させる取り組みなど、抜け目ない企業努力から幣社の目指すべき姿を見せていただきました。

最後のヤスナガ様では社長の冒頭のあいさつに感激しました。水害被害から復旧した感謝の言葉を、ほとんどが新入社員である研修生の一社一社に述べられたのです。その社長の謙虚なお言葉自体が、大型製品を一つ一つ丁寧に作られているモノづくりに反映しているように感じました。

新入社員研修のつもりでしたが、"いろは" だけではなく、板金業の一員として目指すべ き姿をイメージできるすばらしい機会とな り、企画して下さったシートメタル工業会様 に大変感謝しています。





私の、痛風との出会いは今から 25 年前の 30 代半ばで発症しました。

最初は、ゴルフをした当日であったために 足を捻挫したのかなあと思い湿布をして就寝 しましたが、明け方に激痛で目が覚め、外科 病院へ駆け込んだところ、あぁ痛風ですね… 痛風ってなにと考える間もなく、いきなり患 部より注射器で溜まった水を抜かれました。 傷口に塩を付けられた様な激痛が中々治まら ず鎮痛薬を服用し、痛みこそ治まったものの 歩行は困難な状況でした。





それから20年後に、2回目の痛風発作発症し、何とか鎮痛薬にて大事には至らなかったものの歩行時は痛い思いをしました。

そして昨年12月には、自力で歩行もできないくらいの発作発症。

尿酸値を下げる薬は服用していましたが、 充分な自己管理ができず、反省ばかりです。

痛風の歴史はとても古く、エジプトのミイ

ラからも尿酸塩が発見されています。紀元前5世紀には、ヒポクラテスが痛風についての報告もあるようです。

西洋の歴史上の人物のアレクサンダー大王、神聖ローマ帝国皇帝のカルロス五世、フランスのルイ十四世、宗教改革のルター、芸術家ミケランジェロ、レオナルド・ダ・ビンチ、詩人ダンテ、文豪ゲーテ、スタンダールやモーパッサン、天才物理学者ニュートン、生物学者ダーウィンも痛風に苦しめられた人たちだそうです。

明治時代以前は日本には痛風がないとされており、戦後の1960年以降に痛風患者が増加してます。このことからも生活が豊かになってから痛風患者が増え、生活習慣病といわれる由縁がわかります。

痛風は男性の病気と言われており、患者の 99%は男性です。

女性に痛風が少ないのは、女性ホルモンが 尿酸を体外へ排泄しやすくしているからだと 言われています。したがって、一般に女性が 痛風になるのは、女性ホルモンが減る更年期 以降のようです。



痛風の原因となる物質は「尿酸」とされて おります。「尿酸」は血液の中に混じり、普 通に誰でも持っている物質です。

暴飲暴食・運動不足・ストレス・アルコールの飲みすぎなどを繰り返すことにより血液中の「尿酸」が異常に増えて「高尿酸血症」となって体の中で悪さ?を行ない始めるようです。

「尿酸」は体内細胞の老廃物で、おもに「プ

プリン体を多く含む食品【食品 100g あたりの総プリン体含有量 (mg)】						アルコール【100ml プリン体含有量】	
食品	含有量 (mg)	食品	含有量 (mg)	食品	含有量 (mg)	お酒	含有量 (mg)
あん肝酒蒸し	399	煮干し	746	鶏肉レバー	312	紹興酒	11.6
イサキ白子	305	かつお節	493	豚肉レバー	284	地ビール	$5.8 \sim 16.6$
大正エビ	273	干し椎茸	379	牛肉レバー	219	ビール	$3.3 \sim 6.9$
カツオ	211	真イワシ干物	305	牛肉心臓	184	発泡酒	2.8 ~ 3.9
真イワシ	210	真アジ干物	245	鶏肉ササミ	153	日本酒	1.2
クルマエビ	195	サンマ干物	208	鶏肉砂肝	142	ワイン	0.4
スルメイカ	186	乾燥大豆	172	鶏肉手羽	137	ウイスキー	0.1
牡蠣	184	納豆	113	鶏肉モモ	122	焼酎 25%	0

リンヌクレオチド」という物質からできるそうです。略して「プリン体」と言われています。 痛風の食事は、プリン体含有量の少ない料理を食べることが必要となります。また、脂質が少ない料理を食べることも非常に大切です。ドロドロ血は、尿酸の結晶を血管内に留めやすくするため、より痛風の発作がでる可能性が高まるからです。

痛風にとってお酒も大敵です。

よく痛風にはビールが良くないと言われていますが、どのお酒も痛風には良くありません。それは、お酒を摂取すると肝臓が活発に活動し、このときに肝臓の細胞が死んでいきます。死んだ細胞が体内で分解されると尿酸が生成されるのですが、この尿酸が痛風の原因となりますので、お酒は全般的に良いものではなく、ビール以外も痛風にとっては良くはないことがわかります。

痛風の予防改善に一番良いのは、水分を多くとることです。水分を多く取ることによって、体内の尿酸を体外へ排出させるのが最も効果的です。

水分とは、ジュース等ではなく水のことをいい、特にアルカリイオン水や水素水、またはクエン酸水や黒酢は効果があるようです。これらは、痛風で酸性化した血液をアルカリ性で中和し、健康な血液の状態に近づけます。一日に 1.5L 前後の摂取が理想です。

なにも気にせずに食事をしてよいものでも なく、あくまで食事療法の一環としてプリン 体含有量の少ない食品知識を頭の片隅にいれ、プリン体の多い料理を避け生活をした方が早期の治療に繋がります。尿酸を中和するアルカリ性を多く含む野菜の料理を取ることが効果的です。

痛風は痛みがなくなったとしても元の生活を行っていれば、再び痛風の発作が起きるということが解りました。痛風の原因・要因をしっかり把握して予防・対策・改善を厳しい自己管理で克服したい。

痛風に限らず言える事なのですが、人はいろいろな病に侵されるとある程度、生活習慣を改めて体調が良くなります。そうなると病に侵された時の記憶がだんだん薄くなって行き、病気を治す努力を行なわなくなって行きます。

痛風に限らず色々な病気に侵されないように毎日の不規則な食生活(暴飲暴食・アルコールの飲み過ぎ)や運動不足(肥満体質・ストレスの溜め込み)などに注意し、栄養のバランスが摂れた食事をするように心がけ、最低限の毎日必要な運動を行い生活習慣病にならないように、またなったなら改善するように心がけ、より良い毎日を(明るく)(楽しく)(元気)に過ごせるように頑張りたいと思います。!!!

このマイ・ブームとは早く、"おさらば" したいものです・・・・。

〈宮田 良光 ㈱アマダ〉



2012年、初秋。

私は熊本県工業連合会のメンバーを中心とした方たちと共に、インドネシア・ジャカルタへ 視察に行きました。

インドネシア共和国は、人口約2億4000万人(世界第4位)と公称されていますが、現地のJETRO(日本貿易振興機構)ジャカルタ事務所によると、13000を超える島々(約191万㎡)が北米大陸の東西方向とほぼ同じ幅に広がる国なので、正確な人口は定かでなく、3億6000万人とも、4億人を超えているとも言われているという、結構アバウトというか、大らか(?) なお国柄。しかし、こういうところが



インドネシア『らしさ』なのかもしれません。 初代大統領・スカルノさんの夫人が"あの" デヴィさんだったということもあり、とても親 日なお国柄のようで、どこに行っても現地の方 から親しげに、けれど敬意を持って接してもら えました。

現地のガイドのおじさん(60代)に聞いたところ、「日本とは戦時中、悲しい関係になったこともあったけれど、その後の日本からの戦後補償があったからこそ国がここまで発展したと、インドネシア人はみんな知っている。だから、日本人が好きという人はたくさんいても、日本や日本人を嫌っているという人は本当に少数だと思う。」ということでした。

ちなみに…

華人(中国系)は少数派ではありますが、経

済的に支配的影響力がとても強く、また、韓国系は近年かなり強引に金だけにモノを言わせた経済進出をしているということで、どちらかというとあまり好かれていない様子。我々が行った時期が時期だけに、『日本は日本の出来ることを自信持ってやればいいんだ!!』と言う人が多くいらっしゃいました…

今回は半径 50 km圏内をバスで移動して回ったのですが…

とにかくインフラの整備(特に道路の敷設)が遅れていること、それに反比例するかのように、国の後押しもあって若い世代がこぞって新車を購入している(中古車はローンが組めないが、新車はローンで買える)ということもあり、朝から晩までずっと大渋滞!!

毎朝出発してからホテルが視界から消えるまで1時間くらいかかろうか、という具合です。 毎朝がこんな感じ(笑)

走っているバイクの約99%、車の95%以上が日系メーカー製、車はその内約50%がトヨタ、次がホンダ、日産、三菱…と、見える範疇にいる車はほぼ日本で見慣れたマーク。とはいえ、日本で見ることのないアジア戦略車がほとんどですが。ガソリンが約40円/Lということで、ハイブリッドや電気自動車は一台も見ませんでした。ディーゼル車もほとんどいません。また、アジアの国ではよく使われているピックアップトラックはほとんど見ることがなく、通勤やお出かけには道路事情を考慮して乗合で行くことが多いということもあって、日本でいうところのミニバンタイプの車が多い(実際生産もこのタイプがメイン)ようです。

けれど、都市部に車が集中しているのに、他のアジアの国に比べると空気はそんなに汚くはなかったのです。現地の人曰く「日本の車の技術が優れているから、大気汚染はさほどひどくない。」ということらしいです。

今回私たちが見学させていただいた、現地で 日系自動車メーカーの部品を製造されているプ レス工場の社長さんは、



「私は若い頃日系の企業に勤めていました。 だから今回、日本の企業の方が来られると聞き、 是非我が社を見ていただきたいと思いました。 それは、私が日本の皆さんから学んだことを ちゃんと実践出来ているかを見てもらいたかっ たからです。日本人に見せても恥ずかしくない 仕事をしていると自分では思っていますが、も しかしたら日本人が見たらおかしいと感じると ころがあるかも知れない。それを是非指摘して ほしいのです。」と、おっしゃっていました。 その言葉からは、日本に対する敬意と感謝が溢 れているようでした。



社長さんは謙遜していらっしゃいましたが、 場内は清掃も行き届き、機械も丁寧に使われて いました。

製品は出荷順に棚に整然と並べられ、金型や 治工具も散乱したりすることなく、材料や新し い工具、外注品は入荷順に、区分けされた床に はみ出すことなく置いてありました。



日本ではもうあまり見なくなったような、古いタイプの機械を駆使してのものづくり。古いアマダのプレスもリペイントされて(けれどキレイに)使われていました。

雰囲気はまさに"約 40 年前の日本の町工場"。 私が子供の頃、父の会社の工場を見に行ったと きによく似た『活気』や『勢い』を感じたのは、



けっして気のせいではないと思います。

インドネシアの現在の人口構成は、まさにピラミッド型。若年層が多く、人口は今も増加傾向。当然労働力が豊富なうえ、若者たちが夢と希望をもって国の発展、ひいては自分たちの豊かな未来をけん引している。そんな印象を受けました。

加えて、女性の社会進出が著しく、少し前までは『男性は車、女性はバイク』といった風潮だったのが、男女の賃金格差が狭まってきたということもあり、女性の自動車免許取得率が向上したことでさらに自動車購買層が広がり、また広範囲の移動が容易に出来るようになったことで、女性がより高い賃金とキャリアを求めての転職をしやすくなっているという社会背景が、勢いに加速させる要因の一つとなっているそうです。

たくさんの民族がたくさんの島々に暮らし、 多くの言葉が飛び交う国、インドネシア。そん なお国柄だからこそ、過去のしがらみや歴史、 身分や年齢の上下にとらわれず異文化や新しい 技術や仕組みも寛容に受け入れてくれるように 思えました。

インドネシアの人はとても人懐こく、また"島 国"という共通点があるからか、根本的な気質 が日本人と似ているようです。

今後『アジア』という大きなマーケットにおいて、特に我々ものづくりに携わる者がビジネスパートナーとして考えるときには、とても有意義な関係を結べるのではないか、という感触を得ました。

帰りの空から見る夜景は、数少ない舗装路を 絶え間なく続く車のライトで埋め尽くされてい ました。

あたかも、勢いを増すこの国をその光の帯が 後押しするように…

〈宮本 健司 有限会社 ユー・アイ技研〉

DOPDGS

金属王のとりくみ 株式会社三松

2007年6月「金属をもっと生活のシーンへ」をテーマに、株式会社三松とデザインユニット・デザイン特区のコラボレーションによる、「金属王」プロジェクトが始動しました。



■初代金属王 ソファ(Shimen)、 テーブル(ClipTable) 取扱店舗: 受注オーダー 092-926-4711 〈金属王事業部〉

新しい切り口の商品ブランド開発として、テーブルやソファなどの金属家具から、照明器具やペン立てやテープカッターなどのインテリア雑貨・ステーショナリーまで「生活具」としての金属の可能性を表現したデザインで、魅力ある商品を世の中に展開していく第一歩でした。

しかしながら商品価格とクオリ

ティバランスなど、工業製品を主に取り扱わさせて頂 いている弊社では、現場社員のスキルアップと加工技 術の向上は絶対条件で、細かなディテールにこだわり キズーつ許さない付加価値の高い商品作りは、試行錯 誤の連続でした。取り組みを始めて様々な雑誌・TV などのメディアに取り上げていただける機会も増え、お 問い合せや企業 PR には充分な反響でしたが、次に 課題になったのは売る場所です。インターネットが普及 した昨今、ネット販売は考えましたが、オリジナルブラ ンド金属王の知名度からすると、実際に商品を手にとっ て頂ける場所が必要だと感じていました。その頃に福 岡県の新技術・新産業による「福岡県産業デザイン協 議会」にて、2007 年に金属王プロジェクトで奨励賞 を受賞、2009年6月には、北九州小倉のコレット井 筒屋に「福岡デザインコレクション」がオープンし、金 属王商品の販売が決まりました。ようやく商品を一般 消費者の方に見て頂ける場所が出来たわけです。

2010 年から 2012 年まで「福岡産業デザイン賞」で 入賞できるようになったころと時を同じくして、弊社創立 40 周年イベントを開催いたしました。2010 年に【第一回三松アイデアコンペティション】を企画し、県内外から沢山のご応募をいただき。その中から商品化に向けた取りくみを行いました。そこから生まれた商品が、金属王 foret シリーズのブックマークです。福岡デザイン専門学校の学生のアイデアで、デザインと機能が一体となり蝶のカタチを弊社レーザー加工機で精巧に模りました。受賞と同時に東急ハンズ博多店での取扱いが開始され、それと同時にプロデザイナー茂村巨利さ



■ foret シリーズ バッグハンガー・S 字フック 750 円~ 取扱店舗: コレツト井筒屋 5F 福岡デザイ ンコレクション、東急ハンズ博多店



■ foret シリーズ ブツクマーク 450 円〜 650 円 取扱店舗 : コレツト井筒屋 5F 福岡デザイ ンコレクション、東急ハンズ博多店



■ foret シリーズ レター & カードスタンド 1000 円〜 1800 円 取扱店舗: コレット井筒屋 SF 福岡デザインコレクション、東急ハンズ博多店 んデザインによる S 字フック・バッグハンガーも発売いたしました。

2012年1月の、東急ハンズ・福岡産業デザイン協議会イベントでのプロモーション販売では、多くの方々にブックマークをご購入頂きました。また2011年【第二回三松アイデアコンペティション】の最優秀賞は、oyakoフックという、壁掛けフックです。この作品は、2011年震災や洪水といった暗いニュースが多い中で、親子の絆を感じることができる可愛いデザインで、どこかニッコリできる作品コンセプトが評価されました。また金属王 foret シリーズの、「森のいきものたち」のコンセプトに合うという点もありますが、商品化して少しでも皆さんを元気づけられる事が出来ればという願いも込めています。

2012年5月には、西日本リビング新聞社のリビング福岡での主婦ラボという企画に参加させていただきました。この企画は、リビング福岡の読者の方々と意見を交わしながら、消費者目線での商品開発を行う為です。今回選ばれた全員が主婦の方で、金属と聞くと冷たいとか危ないというイメージがあるようでした。そんな中で金属の簡単な特性等をお伝えしながらも、主婦の方が必要としている道具をなんとか金属で表現し、女性にも受け入れられる商品を作るにはどうしたらいいのかと試作検討を繰り返しながら、開発は数ヶ月に及びました。

レター&カードスタンドの誕生秘話は、http://www.livingfk.com/slabo/でご覧いただけます。

その結果、2012 年第十四回福岡産業デザイン賞での入賞と受賞式当日のリビング福岡による一般投票で得票数トップで「欲しい賞」とダブル受賞することができました。主婦の皆様ありがとうございました。







■ Flow シリーズ

左: me ga ne Hanger+ 5775 円中: Key Place 8400 円~ 9450 円右: iFrame〈画像は iPhone4/4s〉

取扱店舗: 銀座伊東屋、The Cover Nippon(一部商品除く)

2012年夏には、金属王 Flow シリーズのデビュー です。Flow シリーズは、「金属を含む様々な素材の 持つ特性を活かしながら、暮らしを見つめる視点と 人への優しさをカタチにして皆様へ…。」をブランドコ ンセプトに掲げ、まず iFrame for iPhone4/4s を開 発いたしました。この商品は、小学館集英社の雑誌 【DIME】通販を皮切りに発売開始が決定し、2012年 冬には、銀座の老舗文房具店【伊東屋】にて、me ga ne Hanger+ の販売開始、2013年1月には、東 京ミッドタウン【The Cover Nippon】http://www. thecovernippon.jp/の福岡展イベントにて、Flow 商品 のお取扱いを頂きました。今後も販売商品の価格とク オリティ・販売店舗など様々な課題はありますが、一 番に商品のクオリティアップ、それもお客様の求めるク オリティです。またコストダウンを同時に行うことで、 値ごろ感のある商品開発が至極当然のように、そして 工業製品のクオリティにも反映出来るように全社一丸と なり取り組んでまいります。

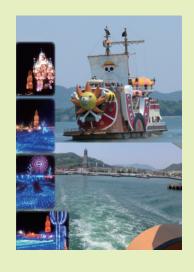
編集後記

中国からの越境汚染が問題になっている。ロンドンの霧といえば、なんだか幻想的な雰囲気を思わせるが、実際のところは、産業革命による急速な工業の近代化によって発生した大気汚染である。私が小学生の頃、我が故郷の北九州市は「七色の煙」の街と言われていた。喘息の子供を救おうと、母親達が公害訴訟に立ちあがったのは、今から50年も前のこと。当時の洞海湾は鉛色に染まり、ドロの海だった。小倉の中心を流れる紫川にも、鼻をつまむ様な異臭が漂っていた。しかし、今では洞海湾にはクルマエビが戻り、紫川にはハゼ釣りを楽しむ人の姿も見られる様になった。昔のことが、嘘の様である。

そして今…。中国が「私達がいつか来た道」

〈大和啓介 三和金属(株)〉





今回の表紙

長崎県佐世保市にある「ハウステンボス」の街中に 1000 万個のイルミネーション!

女性・カップル・ファミリーにも人気のイルミネーション スポットになっています。

中でも「光のガーデン」、音楽に合わせ波打つ「クリスタルブルーウェブ」はとても綺麗で感動すること間違いなしです。また、いろんなアトラクションがあり、大人気の ONE PIECE サウザンド・サニー号のクルージングも楽しめます。

〈表紙担当:中村 充德 有限会社 中村製作所〉

シートメタル 九州 第35号 (九州シートメタル工業会会報) 発行日 平成 25年2月25日

発 行 九州シートメタル工業会

事務局 株式会社アマダ 九州支店

〒 816-0912 福岡県大野城市御笠川 1-9-4

TEL 092-580-8570

九州シートメタル工業会 ホームページ http://www/kyushu-sma.gr.jp ホームページアドレス・メールアドレスを変更された会員の方は、事務局までご連絡下さい。